

「阪神高速^{あす} 未来へのチャレンジプロジェクト」
第2回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

団 体 名	NPO 法人 こうのとり unit		
事 業 名 称	パパの育児参画と妊婦・母児の災害対策	助成額	50万円
申請事業の概要	プレパパの育児参画を目指した妊婦体験（妊婦ジャケット着用）時に、災害想定 of AR により視覚的な危機感を体験し、妊婦・産婦の災害対応・減災のイメージトレーニングを重ね、周知な準備につなげていただく。		
申請事業の目的	<p>プレパパの育児参画を目指した妊婦体験（妊婦ジャケット着用）を行っていますが、老人や障害を持つ方々に匹敵するほど妊婦・母児は避難困難な災害弱者です。</p> <p>災害被害を少しでも低減する備えをし、プレパパはもちろんのこと周囲の者、地域がいかに連携していくか、気を配っていくかが、新しい命を守っていくという点で重要と考えています。</p> <p>普段のイベントなど機会あるごとに妊婦ジャケット着用による妊婦体験をしていただくことで、日常動作の大変さなどを体験してもらっていますが、さらに AR による災害時を想定した体験を重ねてもらうことで、災害への準備などの充実や減災につながり、家族及び地域で災害弱者でもある妊婦や母児を支える気持ちと体制が充実していくことを願っています。</p>		
関連する SDGs 目標	目標3 健康と福祉		

2. 助成事業の実績・成果等について

<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災を教訓とした防災・減災イベントを、1回目2023年1月14日に開催。プレパパ・プレママを対象として妊婦・新生児を災害から守るイメージづくり等の意識啓発を行いました。 ・コロナウイルス感染について専門家会合で「第8波を超える`9波、の可能性もある…」の意見もある中、妊婦およびそのご家族の心情を考慮し、小規模・頻回の開催を意識して、2回目5月13日に家庭内での防災・減災対策、避難が危険と判断した場合の、新しい命を迎えるイメージづくりをしてもらえるイベントが実施でき、3回目9月10日にも大阪市阿倍野区において同様のイベントが開催できました。 ・折しも、世間が`with コロナ、`after コロナ、への移行時期でマスクを外す機会が増えるなか、新しい命を守るご夫婦は、半信半疑で場面によっては感染蔓延時期より危機感を感じ行動範囲も限定的になりがちなか、安全で安心できる体験型イベントの実施は高く評価されました。 ・そもそも`参加型、`体験型、のイベントは、意識と技術の向上に格段の効果が期待される場所ですが、今回ご支援いただいた AR による被災体験を妊婦体験と併用することで一段と臨場感が増し、プレパパの新しい命と家族を守る「父性」を刺激できたことは間違いありません。 <p>参加された方は、妊娠期だけではなく出産後育児をしていく中で、常に妊産婦・児を守る方法を夫婦で考える機会を持ち、笑顔で育児を楽しんでおられます。</p>

・防災・減災を前面に訴える活動により、主に活動してきた大阪市淀川区のみならず他地域において広く水害（内水氾濫、高潮、津波など）の注意喚起と避難、自宅備蓄の留意点について意識の向上が図れました。

3. 課題分析や今後の発展性

・プレパパの育児参画に「防災・減災」を入口とした意識啓発を加えるという点では、少なからず効果的で有意義な活動が展開できたと実感しているところです。

しかしながら、個々の活動の企画・周知方法が十分であったかという点では、まだまだ早期の対応と効果的なPRが可能ではなかったかと感じております。

・参加者の視点に立ってイベント内容の充実を続ける必要がありますが、例えば「出産・育児に関する諸手続」「災害備蓄」「離乳食」「子育てグッズ」「産後の留意点」「母子の健康管理」などなど、各地の格差は有るでしょうが社会資源の情報や今後の様子など、妊婦・母子を取り巻く環境とその変化を総合的に一緒に考える内容に充実していきたいと考えています。

また、開催情報も含めてその情報を対象者に、より早くかつ確実に届ける方法を工夫していくことが重要と考えています。

・今回ご助成いただいたARシステムは高価なため簡単に増設することは困難ですが、他の体験と組み合わせるなど使用方法を工夫して効果を維持・向上させていくとともに、活動を長く続けていくことで、その価値を享受していくことが大切と考えております。

・これら活動で気づいた点では、プレパパあるいはパパの育児参画を促すことを当面の狙いとしているため、ママの技術指導等が満足ではなく、結果、ママが孤軍奮闘する場面を想定すると、ママのトレーニングも重要となってきます。実際にママからも体験したいという希望も強かったため、安全確保の観点から動かないことを条件に体験していただきました。

◎足許が見えない◎しゃがめない◎子ども抱いて逃げられない◎常日頃から避難経路を2人で確認しておく必要がある等の気づきがありました。

同時に、パパの育児参画は“育児にとどまらず、家事全般に視野を広げる必要があります、またパパへも過度の負担がかからないよう、要領などの体得などで、負担を分かちあうのではなく、育児という幸せな時間を共に楽しむ“ほんとうの参画、になるような取り組みが喫緊の課題と考えています。

・また、このような社会情勢の変化に対応するためにも『支える人材』の育成が重要だと考えますが、この支える人材と支えられる人は同一人物で、ここにも縦割りの弊害が発生しないよう、我々のような柔軟なチームが地域や社会資源を繋ぎながら関わっていくことが有効と、今回の活動でも痛感したところです。

4. 代表者又は担当者からのひとこと

このたびは本当に大きな第一歩を踏み出させていただき、心より感謝いたします。

当法人の会員のみならず、“いのちのリレー”に意識をおき奔走する人たちにとって、共感いただくだけでも勇気と活力をいただけるのですが、ご理解とご支援をいただき確信のもてる活動へと移せたことが何よりも心強く、プレパパ・プレママ以上に活動スタッフの意識が高揚いたしました。

当然のことながら今後の課題は継続と向上ですが、バロメータとなる象徴としての「ママの笑顔」のため、周囲の人々を巻き込んでの少子化対策に、非力ながらお役にたっていきたいと思っております。

今後ともご理解とご支援をよろしく願いいたします。